

看護部

1. 平成 29 年度目標

- (1) 平成 29 年度看護部重点目標
患者・職務満足度を高める
・看護職員退職率：10%以下（定年・人事交流除く）
・職務満足度・患者満足度（看護関連）の向上
- (2) 平成 29 年度の課題・計画
1) 部署の領域における看護の質を高める
2) 退院支援を強化し、入院から退院までのスムーズな入退院システムを構築する
3) PNS を推進し、パートナーシップマインドを醸成する（継続）
4) 多様な勤務体制として 12 時間夜勤を導入する（継続）
5) 指導者層の支援体制を整備する
6) 多施設の学生実習受け入れ態勢を構築する

2. 管理・運営

(1) 看護要員

1) 看護要員数

平成 29 年 4 月 1 日現在

看護師	常勤	退職手当制度者	516
助産師		特例賞与制度者	574
准看護師	非常勤	30・35 時間	21
看護助手	非常勤	30 時間以下	78
計			1189
看護師 助産師	育児 休暇中	常勤	63
		非常勤	0
	休職中	常勤/非常勤	9

2) 常勤看護職員配置（看護部長 越村利恵） ※兼任

看護 管理室	看護部長	1
	副看護部長（総務、業務、質保証）	3
	情報担当看護師長	1
	情報担当副看護師長	1
教育 実践室	副看護部長	1
	教育担当看護師長	1
	教育担当副看護師長	2
	教育担当看護師	1
病棟	看護師長	24
	副看護師長	71
	看護師・助産師	709
外来	看護師長	1
	副看護師長	6
	看護師・助産師	80
中央等	看護師長	9
	手術部、放射線部、血液浄化部、中央クオリティマネジメント部、感染制御部、移植医療部、保健医療福祉ネットワーク部、オンコロジーセンター、専門看護室、未来医療開発部、看護部キャリア開発センター	
	副看護師長	12
	看護師・助産師	104
看護管理室付	看護師・助産師	14

3) 常勤看護師・助産師の採用・退職

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

採用状況	採用者数	140
	4 月採用者	124
	中途採用者	16

採用区分	退職手当制度者	26
	特別賞与制度者	114
看護経験	新卒者	100
	経験者	40
最終学歴	大学院博士課程	0
	大学院修士課程	4
	大学	96
	短期大学（2 年・3 年課程）	12
	専門学校（2 年・3 年課程）	28
退職状況	退職者数	117
時期	中途	28
	年度末	89
理由	定年	4
	その他	113

(2) 看護体制

- 1) 一般病床： (857 床) 7 対 1 看護
- 2) 精神病床： (52 床) 10 対 1 看護
- 3) 特定病床：
- | | | |
|-----------|---------|----------|
| 救命一般 | (16 床) | 4 対 1 看護 |
| 救命 ICU | (4 床) | 2 対 1 看護 |
| 集中治療部 | (29 床) | 2 対 1 看護 |
| C V C U | (6 床) | 4 対 1 看護 |
| C C U | (6 床) | 4 対 1 看護 |
| N I C U | (9 床) | 3 対 1 看護 |
| M F I C U | (3 床) | 3 対 1 看護 |
| G C U | (6 床) | 6 対 1 看護 |
- 4) 小児病床： (88 床)

(3) 各種会議・委員会

各種会議・委員会名	開催頻度	回数
看護師長合同会議	月 1 回	11
病棟看護師長会議	月 1 回	10
管理担当副看護師長会議	月 1 回	10
教育担当副看護師長会議	月 1 回	10
業務担当副看護師長会議	月 1 回	10
看護記録委員会	月 1 回	10
教育委員会	月 1 回	10
看護研究支援委員会	月 1 回	10
看護職員確保・定着委員会	月 1 回	10
看護業務改善委員会	月 1 回	10
CNS・CN 委員会	2 ヶ月 1 回	6
福祉厚生委員会	年 5 回	5
クリニカルラダー審査委員会	月 1 回	10
急変対応コアナース会	2 ヶ月 1 回	6
臨地実習指導コアナース会	年 5 回	5
感染管理リンクナース会	2 ヶ月 1 回	6
看護記録リンクナース会	年 5 回	5
スキンケアリンクナース会	年 4 回	4
緩和ケアリンクナース会	2 ヶ月 1 回	4
プリセプター会	年 3 回	3
臨地実習指導者会	年 2 回	2
拡大 CNS・CN 委員会	2 ヶ月 1 回	4

1) 各種会議

i) 看護師長合同会議

以下の内容を検討し、最終決議を行った。

a. 審議事項

- ・平成 29 年度看護部重点目標と目標について
- ・看護部組織図について
- ・看護部会議・委員会機能図について
- ・職務規定について（教育担当副看護師長、教育担当看護師長、情報担当副看護師長、情報担当看護師長）
- ・会議・委員会内規について（副看護師長会議、業務改善委員会）
- ・勤務評価について
- ・救護区分について
- ・職務満足度調査について
- ・超過勤務理由マスタについて
- ・「目標管理」について
- ・平成 30 年度重点目標（案）について
- ・名称変更（業務担当副看護師長）及び名称変更に伴う内規の変更について
- ・福祉厚生委員会と此花会の兼務について

ii) 病棟看護師長会議

病棟での看護業務の運営、管理に関することについて以下の内容を検討した。

a. 審議事項

- ・平成 29 年度病棟看護師長会議議題について
- ・育児休暇復帰者（短時間勤務者）の受入れ体制について
- ・病棟再編について
- ・救護区分の見直しについて

b. 意見交換

- ・看護助手業務の標準化について
- ・新人看護師の健康管理について
- ・手術出頭時間について
- ・仮眠室の使用について
- ・夜勤における業務のあり方について
- ・新卒者の状況と支援について
- ・当直室のベッドメイキングについて
- ・自動販売機の更新について
- ・始業前超過勤務への対応について

iii) 外来看護師長・副看護師長会議

外来体制の変更に伴い解消した。

iv) 教育担当副看護師長会議

所属の看護教育に関することについて、平成 29 年度に検討した職務規定に基づき以下の内容を検討した。

a. 審議事項

- ・ベテラン層による効果的な指導（ナーシング・スキルの周知と活用）
- 10 年目以上の看護師を対象とした「ナーシング・スキルの使用について」のアンケートを実施した。
- ・初めてプリセプターの役割を担う看護師にとって活用しやすいプリセプターシップマニュアルの改訂
- 「プリセプター・サブプリセプターの役割・役割

評価」を改訂した。

- ・集合教育と現場教育との連携（教育担当副看護師長と教育実践室が情報共有する機会）
- メンバーで情報共有しスタッフの教育方法を検討した。情報共有シートの使用方法和シートの保管場所、運用方法等を検討した。
- ・PNS の導入への準備と導入病棟とその他の病棟における違いについての分析
- PNS についてのプレゼンテーションをした。「導入過程における課題と対策」をまとめた。
- ・プリセプターが疲弊しないような支援方法の明確化
- 「e-サポートサイクル」について事前に収集した意見や感想を基に、「マニュアル化するにあたって“否定的な意見”から『部署のスタッフを巻き込む方法の体制』を検討した。

v) 業務担当副看護師長会議

所属の業務に関することについて、平成 29 年度看護部目標を受けて以下の内容を検討した。

- ・与薬ガイドラインの共通部分の作成
- ・看護必要度の適正入力取り組み
- ・パートナーシップマインドの醸成に向けての取り組み
- ・倫理検討会における効果的なファシリテーターについての DVD の作成
- ・外来・病棟連携として継続看護の基準を作成
- ・看護度を廃止し、救護区分と観察の程度の判断基準を決定し、災害時に使用できる搬送方法を作成
- ・転棟時の申し送り方法の検討
- ・病棟再編に伴う複数診療科対応に関する調査
- ・疾患別看護基準の統一

vi) 管理担当副看護師長会議

所属の看護管理に関することについて、平成 29 年度に検討した職務規定に基づき以下の内容を検討した。

<医療安全について>

- ・患者確認プロセスの「同定」を行っていないことによる患者誤認「0 件」を目指し、確認プロセスの強化のために取り組んだ。
- ・患者誤認に関するインシデント内容を分析し、プロセスの段階について理解を図り討議した。
- ・「危険予知トレーニング」の勉強会を実施した。

<防災について>

- ・看護管理マニュアルの防災項目の見直し、人工呼吸器使用患者の避難方法を検討し追加した。
- ・部署の防災訓練に評価者が参加する取り組みとして、評価方法や評価者を検討し、DMAT 隊員による訓練参加の試行を開始した。
- ・各部署の防災及び震災訓練実施報告書の集計を行い、各部署の訓練実施状況を確認した。

<看護体制について>

- ・各部署での看護体制の支援の現状と、問題点について検討した。
- PNS については次年度の検討課題とした。
- ・プライマリナーズの要件について検討した。

- ・病棟再編成に伴う看護に標準化として、入院時の説明用紙の統一に向けた検討した。
〈感染について〉
- ・感染リンクナースの支援を継続的に行うための情報の浸透や支援方法について検討した。
- ・医療用品の管理方法の標準化のため、カテーテル関連物品の交換、消毒について検討した。

2) 各種委員会

i) 教育委員会

委員会主催でクリニカルラダーⅡ取得者がやりがい感をもって働き続けるための講演会を企画した。参加者は合計44名で、95%が満足したと回答した。また、看護技術の標準化（エビデンスを確認し手技を統一する）として、「白湯注入方法」、「環境整備の使用物品」、「輸液バッグへのマジックでの記載」の3点について検討し、ナーシング・スキル日本版のノート機能にアップし、部署に周知した。平成26年度に作成した院内感染対策シミュレーショントレーニングDVD(部分的に抜粋)についてもノート機能に阪大オリジナルとしてアップした。

さらに次年度の実施に向けて静脈注射レベル認定評価者育成プログラムを検討し、「ナーシング・スキル日本版」のテストとチェックリストで看護技術の知識と技術を評価することに決定した。

ii) 看護研究支援委員会

部署から提出された研究計画書6件と実践報告23件を全て審査した。研究計画書のうち院外発表につながったものは1件、実践報告のうち院外発表につながったものは予定を含め16件だった。申請者が研究計画書や抄録を作成する際の注意点や評価基準がわかるように、各審査申請書と審査結果報告書を改訂した。クリニカルラダーレベルⅢ（研究）取得に向けての支援としては、修正すべき内容が申請者に伝わりやすくなるように評価表を見直した。その新たな評価表で研究計画書19件（新規申請11件、昨年度保留のため再申請8件）を審査したが、今年度は評価表を申請者に返却するには至らなかった。

iii) 看護記録委員会

看護記録の質の向上を図ることを目的に、看護の過程が見える（共有できる）記録の推進、看護計画開示の定着に取り組んだ。内容は、看護関連マスタの修正・見直し、新規作成と定期的な見直しのためのシステムの検討、量的・質的看護記録監査の実施・評価、看護計画開示の状況調査、問題解決過程の監査表作成であった。質的看護記録監査は看護診断過程について実施し、監査した症例について各部署でヒアリングを行った。これらは看護記録リンクナース会、業務担当副看護師長会議と連携して実施した。

iv) 看護業務改善委員会

看護業務に関する検討、看護業務の効率化と標準化、安全でエビデンスに基づいた看護の提供のために取り組んだ。

- ・中心静脈輸液ルートの選定と全部署への導入

- ・各部署で購入している看護用品の統一化
- ・ピクトグラムのデザインの変更

v) 福祉厚生委員会

看護職員相互の親睦を図り、厚生施設、設備等の充実を図ることを目的に、秋の大感謝祭、雛祭りを企画・実行した。大運動会から変更し秋の感謝祭を企画したが、341名と昨年同様の参加者があり、雛祭りは303名の参加者で大盛況であった。

vi) CNS・CN委員会および拡大CNS・CN会

専門看護師・認定看護師（以下、CNS・CN）の活動促進、および看護実践の質向上の支援を目的として、CNS・CNの部署外活動のPR、活動ニーズの把握にとりくんだ。その一環として、委員会とCNS・CNの情報交換、並びに領域を越えた連携を目的に、院内のCNS・CN全員を対象とした拡大CNS・CN会を4回開催し、年度末に1年間の取り組みを発表した。

vii) 看護職員確保・定着委員会

看護師の確保に関する活動については、インターンシップを16回開催のべ310名、施設見学会は10回開催のべ250名の参加者があった。施設見学会は平成29年度から見学部署を従来の希望部署2か所からオンコロジーセンター、高度救命救急センター、手術部、ICU、小児医療センター、ハートセンターの見学ツアーに変更したが、参加者の満足度は高かった。

企業主催の合同就職説明会には5回、学校主催の就職説明会は5校参加し、のべ614名に説明を実施した。

看護職員の定着に関しては平成28年度の職務満足度調査と退職者アンケートの結果を分析した。職務満足度調査では新卒入職3～5年未満の「職員の意見・要望を聞く」と「仕事に充実感や達成感を感じている」が職場定着と関連があった。また、これらの分析結果に基づき、超過勤務の理由マスタおよび退職者アンケートの内容について見直した。

平成29年度の職務満足度調査は今年度同様e-learningで実施し、重視度を併せて調査した。

viii) クリニカルラダー審査委員会

クリニカルラダーⅠ・Ⅱの承認とⅢ（看護実践）及びⅢ（教育・研究・管理）・Ⅳの認定審査を承認基準、認定基準、評価方法に基づき実施した。

ix) 感染管理リンクナース会

感染防止対策を推進することを目的に、標準予防策の水準向上に向け、手指衛生、防護用具、体液曝露、環境・廃棄物、洗浄・消毒・滅菌について取り組んだ。グループワーク等を通して各部署の感染対策上の現状を把握し、課題を抽出して活動し、年度末には活動報告会を実施した。

x) 看護記録リンクナース会

看護記録の質保証及び電子カルテによる適切な記録を推進することを目的に、各部署の現状からそ

それぞれの目標を設定し、取り組んだ。また、看護記録マニュアルに準じて看護記録が記載されているかの現状を把握するため、量的看護記録監査の実施と集計・分析を行った。各部署の取り組みについて、活動報告会を実施した。

xi) スキンケアリンクナース会

末梢静脈路固定法、弾性ストッキング装着法、間欠的空気圧迫装置装着法、膀胱留置カテーテル固定法について、主に医療関連機器圧迫創傷予防の視点から標準化した。また、新人への褥瘡予防ケアの教育は、各部署のリンクナースが中心となり実施した。

xii) 緩和ケアリンクナース会

がん患者の早期からの緩和ケアを推進する目的で、情報交換・情報共有および緩和ケアに関する看護職員への啓発活動を行い、がん患者の緩和ケアスクリーニングに取り組んだ。

xiii) 急変対応コアナース会

インストラクターの質を維持・向上させるために急変対応に関連したクリニカルラダーⅠ～Ⅳの到達目標を検討した。また、例年実施している段階別研修Ⅰ「BLS」・キャリア開発研修 Basic コース「急変対応」を運営し、医学部保健学科の「一次救命処置技術演習」、「院内 ACLS コース」のインストラクターも務めた。さらに3つのグループに分かれて、部署のシナリオシミュレーションの見学と助言、部署での急変時の振り返り用紙の作成、作成したラダーの到達目標に応じた研修の企画について取り組んだ。

xiv) 臨地実習指導コアナース会および指導者会

年2回(5月、1月)開催の臨地実習指導者会のプログラムの検討と平成30年度より武庫川女子大学の実習を受け入れることに伴い、基礎看護学実習医療環境見学のプログラムの検討と、臨地実習指導マニュアルの改訂を実施した。また、保健学科の基礎看護学実習日程の変更に伴う問題点抽出のため、受け入れ病棟をラウンドして情報収集し、臨地実習指導者会で対応策と合わせて報告した。

臨地実習指導者会は、効果的な学生の臨地実習指導を支援することを目的に、医学部保健学科教員と協働で開催した。教員からは看護基礎教育における臨床実習の意義や現状、基礎看護学実習および成人看護学実習の変更点について説明があった。また、実習中の指導体制や実習に臨む学生に期待することについてディスカッションした。

xv) プリセプター会

年3回(5月、9月、3月)実施した。第1回と2回は新人看護師の現状から考える現場教育の問題点(目標に沿った実践能力の評価、個別性に合わせた指導、精神面の支援)について情報共有した。また、「プリセプターシップマニュアル」の【プリセプター・サブプリセプターの役割】を「より具体的に記載してほしいこと、実際に自分達が実施していることで追加してほしいこと」について意見交換した。

第3回は活動報告として「プリセプターシップについての部署の問題と対策」を発表する(26部署)機会を作った。

(4) 人事交流

全国国立大学病院対象の人事交流の受入れや出向は無かった。

(5) ローテーション

看護実践力の維持・向上および職務への動機づけ向上を目的に、退職・異動希望調査を基にローテーションを実施した。また集中治療部の増床に伴う看護職員増員は6月と11月に計画的に実施した。

時期	人数	時期	人数
平成29年4月	36	平成29年5～8月	6
平成29年9～12月	10	平成30年1～3月	6

(6) 実習生の受け入れ

	臨地実習名	受け入れ部署	日数	人数
千里金蘭大学	小児看護学実習	東6・西6	14日	18
	母性看護学実習	西3	7日	4
大阪大学医学部保健学科看護学専攻	基礎看護学実習	東3・8・10・13 西7・9・11・12・13	1日 2日 2日	73
	統合看護学実習Ⅰ	手術部	1日	82
	領域別看護学実習(成人Ⅰ)	東5・西5・8・10 手術部	8～9日 ×9	83
	領域別看護学実習(成人Ⅱ)	東7・9・11・12	8～9日 ×8	82
	領域別看護学実習(精神)	東2	7～8日 ×8	73
	領域別看護学実習(小児)	東6・西6	7～8日 ×8	81
	領域別看護学実習(母性)	西3・小児科外来	7～8日 ×8	80
	領域別看護学実習(助産学)	西3 産科婦人科外来	3週×2 1週×6	4 10
	領域別看護学実習(在宅)	保健医療福祉ネットワーク部	8日	3
	統合看護学実習Ⅱ	東2・5～9, 11～13 西3・5・6・8～13 外来・保健医療福祉ネットワーク部	3～4日	53

(7) 研修生の受け入れ

施設名	日数	人数	受け入れ部署
名古屋大学医学部附属病院	5日	2名	移植医療部
日本看護協会 神戸研修センター 認定看護管理者教育課程サードレベル	1日	1名	看護管理室
大阪大学医学系研究科保健学専攻 大学院生	10日	1名	オンコロジーセンター
大阪大学医学系研究科保健学専攻 大学院生	3日	1名	専門看護室
大阪大学医学系研究科保健学専攻 大学院生	3日	1名	教育実践室
大阪大学医学系研究科保健学専攻 大学院生	3日	1名	保健医療福祉ネットワーク部

大阪大学医学系研究科保健学専攻 大学院生	10日	1名	オンコロジーセンター
大阪大学医学系研究科保健学専攻 大学院生	3日	1名	感染制御部
大阪大学医学部保健学科看護学専攻 教員	3日	2名	東2

(8) 施設見学の受け入れ

施設名	受け入れ部署	日数×人数
関西メディカル病院	放射線部	1×5
関西労災病院	手術部、東9	2×5
関西労災病院	手術部、東9、西9	2×4
奈良県立総合医療センター	手術部	1×2
滋賀医科大学医学部附属病院	手術部	1×2
市立池田病院	集中治療部	1×4
兵庫県立姫路循環器病センター	外来	1×2
奈良県立医科大学附属病院	手術部	1×3
島根県立松江南高等学校	看護管理室	1×7
国立成育医療研究センター	東6	1×1
愛媛大学医学部附属病院	手術部、西6、集中治療部、西9、東9	1×5
関西労災病院	手術部	1×1
タイ保健省	集中治療部	1×8
さいたま市立病院	看護管理室	1×1

3. 看護実践

(1) 専門性が高く質の高い看護の提供

1) 看護方式

プライマリナーシングに近い継続型受け持ち看護方式をとり、患者の入院から退院まで1人が責任を持って担当している。受け持ち看護師の支援体制として、ペア、トリプル、モジュール方式を行い、平成25年度からPNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）を意識したパートナー制を導入した。

2) 看護体制

すべての病棟が二交替制勤務を行い、夜勤の負担軽減を目的に平成30年2月から高度救命救急センターで12時間勤務の試行を開始した。

3) 専門ナースの活動

看護実践において、専門ナースが活躍している。

専門ナースの配置

配属部署名	専任	兼任
保健医療福祉ネットワーク部	5	
専門看護室：糖尿病ケア	1	
中央クオリティマネジメント部（GRM）	2	
未来医療開発部（CRC）	2	1
移植医療部（RTC）	4	

4) CNS・CNの配置

配属部署	専門分野	人数
看護管理室	感染管理 CN	1
専門看護室	皮膚・排泄ケア CN	2

オンコロジーセンター	がん看護 CNS	1
	がん化学療法看護 CN	1
	緩和ケア CN	1
感染制御部	感染管理 CN	2
NICU	新生児集中ケア CN	1
	不妊症看護 CN	1
小児医療センター	皮膚・排泄ケア CN	1
西9 東5 東5 東2 東7 東9 東12 東13 東13	救急看護 CN	1
	がん看護 CNS	1
	放射線看護 CN	1
	精神看護 CNS	2
	慢性呼吸器疾患看護 CN	1
	慢性心不全看護 CN	1
	糖尿病看護 CN	1
	がん看護 CNS	1
	緩和ケア CN	1

4. 教育の体系化と拡大

(1) 教育の種類

1) 現任教育

i) 院内教育

集合教育としては、一人前までの看護職員を育成する段階別研修と一人前以上の看護職員に対するキャリア開発研修を実施した。部署においては現場教育プログラムに基づき、年間計画のもとに教育体制を整えている。

<段階別研修他>※時間は1人当たり

研修名	時間 ×開催 日	受講 者数
段階別研修 I		
感染予防技術	4×4回	100
知識確認	2×4回	100
医療安全	4×2回	100
静脈血採血	4×4回	100
輸液管理	2×2回	100
輸液ポンプ・シリンジポンプ	4×4回	100
輸液ポンプ・シリンジポンプの点検・取り扱い、検体の取り扱い	2×2回	100
身だしなみ・あいさつ	2×4回	100
身だしなみ・あいさつ（演習）	4×4回	100
自己の健康管理	2×4回	99
社会人基礎力の評価	4×2回	99
オリエンテーリング	2×4回	99
患者体験	4×4回	100
チーム間コミュニケーション	2×4回	100
チーム間コミュニケーション（演習）	4×4回	100
救命救急処置技術	4×4回	98
心電図のモニター装着と管理	4×4回	99
基本姿勢と態度（自覚と責任ある行動）の振り返り	4×4回	97
多重課題	8×4回	97
看護後術6ヶ月チェック	4×8回	96
基本姿勢と態度（患者の理解・人間関係の確立）の振り返り	4×4回	87

段階別研修Ⅱ		
看護過程①看護診断過程概論	4×3回	107
看護過程②問題解決過程概論	4×3回	106
看護過程③看護関係理論	4×3回	101
看護過程 事例の構造化-看護関係理論-	8×3回	57
看護過程 (経験者編)	8×1回	21
看護過程 看護実践の振り返り	4×6回	55
研究基礎-文献検索-	3×2回	10
管理基礎-目標管理-	2×2回	51
管理基礎-目標管理- (経験者編)	2×2回	21
教育基礎-新人指導・後輩指導-	2×2回	51
教育基礎-新人指導・後輩指導- (経験者編)	2×2回	21
段階別研修Ⅲ		
事例発表 (看護診断過程編) オリエンテーション	2×2回	55
事例発表 (看護診断過程編)	8×2回	47
その他		
新採用者オリエンテーション (4月)	8×3日	128
新採用者オリエンテーション (9月)	6	2
アシスタントナース研修 ・看護部概要・アシスタントナース 業務の理解	0.5	21
・感染予防技術	1.5	69

ii) 評価システム

段階別研修では研修時の自己評価とレポート・確認テスト等で目標の達成度を評価した。看護技術については看護技術チェックリストで9月、翌3月(新人看護職員の場合)に他者評価及び自己評価を実施し、2年目以上の看護職員に対してはクリニカルリーダーレベルⅡ(一人前)になるまで毎年度末に評価した。

全看護師・助産師を対象にクリニカルリーダーで臨床看護実践能力の評価を実施した。平成29年度の認定者総数は、レベルなしが71名(7.5%)、レベルⅠは153名(16.1%)、レベルⅡは444名(46.6%)、レベルⅢ(実践)は19名(2.0%)、レベルⅣは216名(22.7%)、レベルⅤは49名(5.1%)となった(看護部長と非常勤看護師20名と新規採用者125名を含まない952名が対象)。

iii) 院外教育

研修名	主催	日数	人数
看護管理者研修(ベーシックコース)	千葉大学	3	1
小児在宅移行支援指導者育成 試行事業	日本看護協会	5	1
看護業務に役立つ著作権の理解と著作物の利用方法	日本看護協会	1	1
看護管理者が行う倫理的思考と倫理的実践	日本看護協会	2	2

施設における患者の急変予測と対応に関する教育プログラム設計	大阪府看護協会	1	1	
看護師長に必要な組織分析の進め方		1	2	
大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会①		41	1	
事例から学ぶ労務管理のノウハウ		1	1	
看護管理者が担うメンタルヘルス		2	2	
チーム医療を推進する多職種協働のマネジメント		1	1	
成果につながる「交渉術」		1	1	
中堅看護職員の育成と活用		1	1	
「やらされ感」からの脱却「目標による管理」の本質をつかみ、管理力の基本を身につける		2	1	
医療メディエーション		1	2	
指導者としてのリーダーシップ①		2	1	
ファシリテータ型リーダーシップ～ファシリテーションスキルをマネジメントに活かす～		2	2	
クリティーク～論文を読み解く力をつけよう～		1	2	
管理者のためのリスクマネジメント		2	3	
看護記録(実践編)		2	2	
新人看護職員研修責任者研修		4	1	
人材育成-看護OJT6つの鉄則		集団力学研究所	1	1
ファシリテーション能力養成講座-集団の知的相互作用を促す-			1	1
看護管理:キャリアプラト(停滞)を超えて-意思決定と動機付け-			1	1
論理的思考(ロジカルシンキング)-論理的思考で、問題解決力・指導力・交渉力がアップする!-			1	4
現場に活かす「臨床倫理」の考え方-4分割法-	1		1	
概念化能力養成講座-概念化で組織力を上げ、問題解決、スタッフ育成に活かす-	1	1		
重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修	S-QUE研究会	1	1	
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	大阪府看護協会	27	3	
		28	2	
認定看護管理者教育課程セカンドレベル		33	1	
	藍野学院	33	1	

認定看護管理者教育課程サードレベル	大阪府看護協会	29	1
第53回日本移植学会学術集会 (学外技術研修事業)	大阪大学	3	1
第37回日本看護科学学会学術集会 (学外技術研修事業)		3	1

マニュアルを改定した。

6) 多施設の学生実習受け入れ態勢を構築する

平成30年度から武庫川女子大学の基礎看護学実習受け入れを開始することとし、他施設からの移植医療関係の研修、見学を積極的に受入れた。

5. 評価

(1) 平成29年度看護部重点目標

「職員満足度を高める」を目標に取り組んだ。

重点目標の評価指標を、看護職員退職率10%以下(定年・人事交流除く)、職務満足度の向上(前年度比較)とした。

結果は、看護職員退職率10.8%、職務満足度は年齢別でみた場合25～34歳、経験年数8～10年未満の満足度が低かった。項目では「直属の上司」や「労働条件」が昨年度から低下したが、その他の項目は変化がなかった。重視度が高く満足度が低い項目で、職場定着に相関する項目として、職員意見の尊重や充実感・達成感が抽出された。

1) 部署の領域における看護の質を高める。

末梢静脈路固定法、弾性ストッキング装着法、間欠的空気圧迫装置装着法、膀胱留置カテーテル固定法等の標準化を図った。

患者誤認インシデント事例の共有、防止に向けて取り組んだ。

転棟・転落防止に関して、インシデント事例をもとに共有する項目を抽出し周知した。

インスリン針の変更による取り扱いを周知した。

国立大学病院看護部長会議で臓器移植マニュアル(心臓移植)の素案を作成した。

各部署でクリニカルパスの導入・見直しを行った。

2) 退院支援を強化し、入院から退院までのスムーズな入退院システムを構築する。

入退院の患者説明用紙の標準化を図り、入院～外来の連携強化について検討した。

入院病床をスムーズに決定するための病棟再編について対応を検討した。

保健医療福祉ネットワーク部に退院調整看護師を追加配置した。

3) PNSを推進し、パートナーシップマインドを醸成する(継続)

副看護師長会議で部署をラウンドし、雰囲気等を調査した。

4) 多様な勤務体制として12時間夜勤を導入する(継続)

高度救命救急センターで12時間勤務の試行を開始した。

5) 指導者層の支援体制を整備する

会議、委員会を勤務時間内に実施し、プリセプターシップ

平成29年度看護部評価指針

評価項目	評価目標	評価指標	データ	点数
看護職員 定着促進	離職率が目標値以下となる(定年退職・ 人事交流除く)	10%以下(10%≥)		3
		10%~12%以下		2
		12%~15%以下		1
		15%より多い(15%<)		0
中途退職がない (延長による予定退職除く)	なかった		3	
	あった		0	
患者満足度	患者満足度調査の平均が90%以上である	患者満足度調査の平均が95%以上であった		3
		90%~95%未満であった		2
		90%~80%未満であった		1
		80%未満であった		0
インシデントの報告	医療・看護行為実施時の患者観察に関するインシデントがない	なかった		3
		あった(1件)		2
		あった(2~3件)		1
		あった(4件以上)		0
隔離予防策	アウトブレイクがない	感染制御部の介入がなかった		3
		あった		0
業務管理	一人あたりの超過勤務時間の全員月30時間未満である	所属の看護職員全員月30時間未満		3
		所属の看護職員の80%~100%未満が月30時間未満		2
		所属の看護職員の50%~80%未満月30時間未満		1
		所属の看護職員の50%未満月30時間未満		0

病棟のみ

病床稼働率	医師とともに設定した部署の目標稼働率を達成する(中間評価修正値)	達成した		3
		達成しなかった		0
平均在院日数	医師とともに設定した部署の平均在院日数を達成する(中間評価修正値)	達成した		3
		達成しなかった		0
看護実践:褥瘡発生率	褥瘡発生率が前年度と同様または減少する	褥瘡発生率が前年度より減少した		3
		褥瘡発生率が前年度と同様または平均以下		2
		褥瘡発生率が増加したが平均以下		1
		褥瘡発生率が前年度より増加し、平均以上		0

外来のみ

患者待ち時間の短縮	診察待ち時間が前年度より短縮する	達成した		3
		達成しなかった		0
患者待ち時間の短縮	待ち時間に対する満足度が前年度より改善する	達成した		3
		達成しなかった		0

